

何も知らない

「鮮やかで強烈な色」

あなたは何を思い浮かべるのだろう
燦爛と燃える太陽のことを言っているのだろうか
はたまたバラのようにきれいなお花のことを言っているのだろうか

きっと私たちはきれいなものを想像するのだ
それはとてもいいことだ
でも、あなたはきっと違うものを想像するのでしょうか？

1945年8月6日午前8時15分
鮮やかで強烈な色が広島を包んだ
この光はあなたのすべてを奪っていった
とても静かに、でも、確実に

この光は真っ黒い雨を降らせた
私たちはやめた方がよいといった
でもあなたはその雨を飲むのでしょうか？

この光はあなたの友、家族、生きる“かて”を奪っていった
そこらに死体が転がっていようと構わない
この光はあなたの心をずっと占領していたのでしょうか？
あなたが残した消えることのないこの光は私たちに影を作る
見つめなければいけないもの、聴かなければならない音を隠してしまう
きれいなものなんかじゃない
この光は何なのか
私たちは何も知り得ない
あなたがそうだったように
私たちもきっと奪われてしまう
とても静かに、でも、確実に近づいてくるのだから
私たちは守らなければならない
あなたが残したこの光を片手に持ちながら
私たちはもう一度つかみなおす勇気を持たなければならない
あなたの分も私の分も